



「日々のアイダ」

80F (112.0×145.5cm)、紙本彩色、2025年

公園の水辺で見つけた景色がモチーフです。
取材したのは10年以上前になりますが、今もその光景を見たときの大きなセカイに繋がる感覚は鮮明に覚えています。

「その大きな世界につながる感覚」とは何なのか？
言葉にするのは難しいですが、
例えばそれは「今ここにあるもの」の奥に脈々と続いてきた時間の経過や過去、現在、未来へとつながっていく生命の神秘のようなものなのかもしれません。

その様なものを描き出すことはできないかという思いで描きました。



「ソラに咲く」

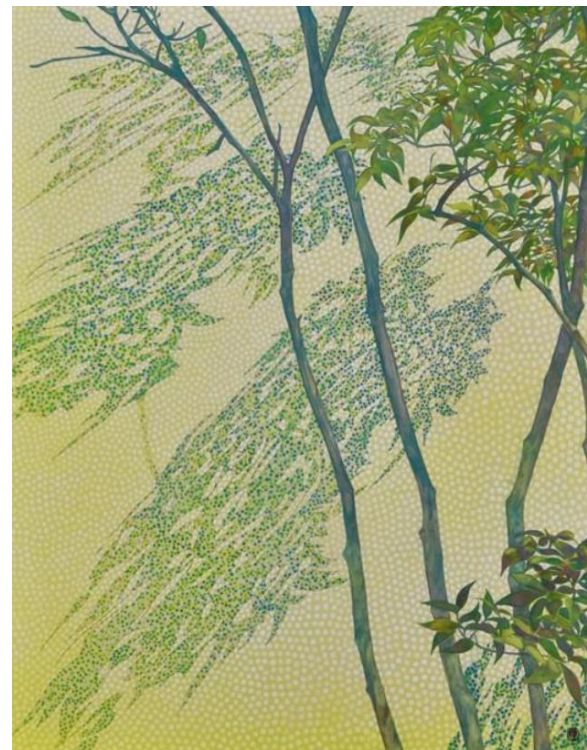
15F (65.2×53.0cm)、紙本彩色、2025年

公園の水辺で見つけた景色がモチーフです。

取材したのは10年以上前になりますが、今もその光景を見たときの大きなセカイに繋がる感覚は鮮明に覚えています。

「その大きな世界につながる感覚」とは何なのか？言葉にするのは難しいですが、例えばそれは、「今ここにあるもの」の奥に脈々と続いてきた時間の経過や過去、現在、未来へとつながっていく生命の神秘のようなものなのかもしれません。

その様なものを描き出すことはできないかという思いで描きました。



「優しくそよぐ」

15F (65.2×53.0cm)、紙本彩色、2025年

家の壁に木々の影が映った様子がチーフです。

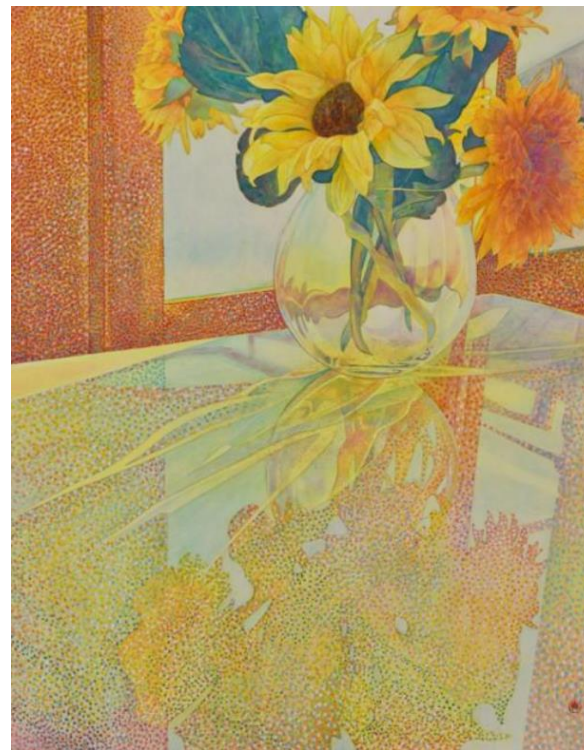
その長く伸びる影の姿に目には見えないけれど、確かにあるだろう「大きなセカイ」やこの世の神秘性を投影して描きました。



「日々是好日」

6F (41.0×31.8cm)、紙本彩色、2025年

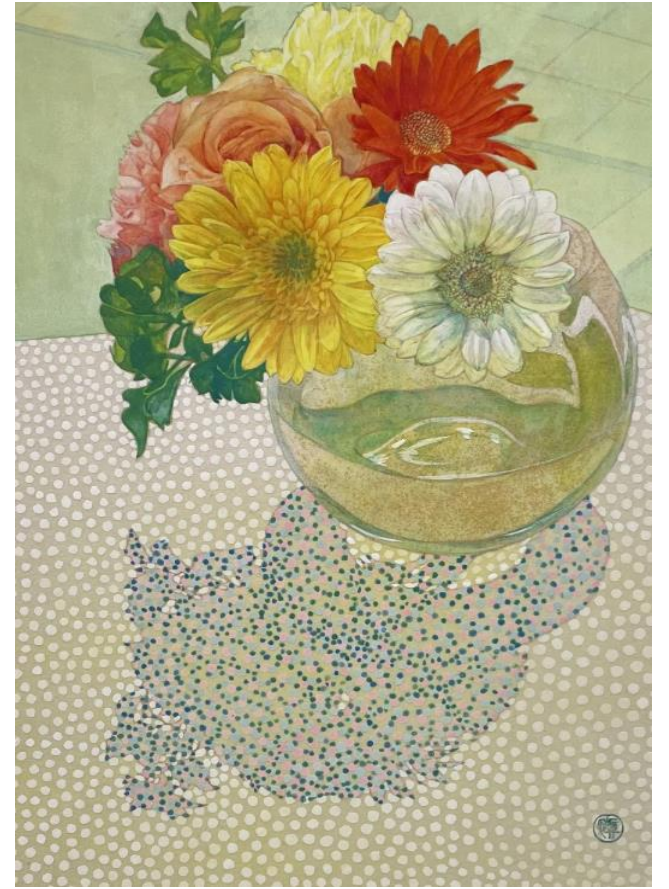
庭のブルーベリーの木の葉をモチーフに描きました。
日々少しずつ形や色を変化させながらも、同じ場所に常にたたく木の葉は、太陽の恵みを受け色濃く影をおとします。
その光景は見過ごされてしまいがちのものです。今一度丁寧に見つめてみるとその情景とそれを見つめる時間の余白を前に幸福感が湧き上がってきました。そのような思いを作品に込められればと制作しました。



「ひだまり」

15F (65.2×53.0cm)、紙本彩色、2025年

私のアトリエにいつもある造花ひまわりがモチーフです。
毎日のように目にするものですが、午前中の光に照らされキラキラと光り輝いている姿に引き込まれ観察していると、不思議と心が洗われ、穏やかな気分になりました。
このような大きな自然の恵みに包まれるイメージを作品にしました。



「ハレノヒ」

4F (33.3×24.2cm)、紙本彩色、2025年

ひまわりやガーベラなど、太陽を連想させる花をモチーフに描きました。
光の恵に包まれてそこにある様は、それを取り巻く日常を非日常の「ハレの日」に変えてくれるようでした。



「何を映す」

0F (18.0×14.0cm)、紙本彩色、2025年

私たちが視覚的に見ているものはそのものの本当の姿をどのくらい映しているのか？という疑問が制作の動機になっています。この世界の大きな部分を占めるであろう見えない世界のイメージを植物が落とす影と重ね合わせて描きました。